

算数指導部 研究の概要

1 研究テーマ

「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

— 算数の授業を通じた「表現力」と「コミュニケーション力」の育成 —

2 育てたい力

◆表現力

- 問題を明確にとらえる。(読む・聞く)
- 解決の方法を考える。
- 自分の意見や考えを持つ。
- 多様な表現方法を用いて、自分の意見や考えを相手に伝える。

◆コミュニケーション力

- 相手を意識し、的確に伝えようとする。
- 自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりすることを通して、考えを深めていく。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 算数科の基礎基本の定着を図る指導のあり方

- 教材・教具の工夫
- 個人差に応じた指導や支援の工夫

〔視点2〕 算数的表現力を高めるための指導のあり方

- 学習活動・学習形態の工夫
- 自分の考えをわかりやすく伝える表現力の育成
(言葉で表現、式で表現、図で表現、操作で表現)

〔視点3〕 コミュニケーション力(関わる力)を育てる授業のあり方

- 友達と関わる力を育てるための場の設定(言語環境・学習環境・雰囲気作り)
- 相手の話をよく聞き、友達の考えに関わろうとする態度の育成

4 研究計画(一人一研究授業の実施月・授業者・教科・単元名等)

12月15日	3学年	佐藤 敏之	算数	単元名「ぼうグラフと表」
12月18日	4学年	平塚 和男	算数	単元名「計算のきまりを調べよう」
12月10日	5学年	橋本 拓也	算数	単元名「面積の求め方を考えよう」
12月 2日	6学年	松岡 倫子	算数	単元名「体積のはかり方と表し方」

算数指導部のまとめ

成果 (○) と課題 (●)

<視点1> 算数科の基礎基本の定着を図る指導のあり方

○問題文に下線を引いたりマークを付けたり、色分けをしたりすることが、問題文の意味理解に効果があった。下線を引かないまでも、「わかっていること」と「求めること」を問題文から見つけさせることで、解法を考えやすくなった。

○難易度別の練習プリントを用意することで、児童の個人差に応じた対応をすることができた学年があった。理解の早い児童の意欲を高めるような工夫のしかたは、他学年でも参考にしたいものである。

○前時の内容を掲示しておき、本時の学習内容と関連させることで、学習の定着につなげることができた。(前学年の学習内容を掲示して関連させた学年もあった。)

●計算スキルで個人差が大きくなっている。繰り下がりや繰り上がり等、基本的な計算に誤りのある児童が見られた。朝スキルの時間等に取り組んできたが、今後も継続して取り組んでいくことが必要である。授業の中で振り返る時間を取ることができればよいが、どこで時間を取るかが課題である(特に少数の筆算等)。

●問題文に下線を引いて計算はできても、問題文の意味をよく理解していない児童が見られた。授業では一斉読みや黙読を取り入れても、テスト等の一人で取り組む問題になると、問題文を読まずに数字だけを操作する児童も見られた。

<視点2> 算数的表現力を高めるための指導のあり方

○児童全員が授業時間の中で発表する機会を持てるように、学年によっては、2人グループ、4人グループ等の形態をとってきた。人数が少ないので、発言しやすいというメリットがあるため、それまで発言の見られなかった児童も発言する様子が見られるようになった。

●「～と同じです。」と言う児童には、「～と同じで～です。」と考え方まで言えるように指導してきた。どうしても「何を言っているのかわからない。」という児童もいるので、発表の型のようなものがあると、言いやすいようである。(筆算の計算の仕方は、言うことが決まっているので、ほとんどの児童が発表する様子が見られた。)

○ホワイトボードは、自分の考え方を書いて、そのまま黒板に掲示して発表することができるので効果的に活用することができた。あまり知られていないようだったので、今後の有効活用を考えたい。

●考えるための表現力や考えたことの表現についての指導については取り組んできたので、今後は、相手にわかりやすい表現を考えさせていくことが課題である。

<視点3> コミュニケーション力(関わる力)を育てる授業のあり方

○発表者の考えをクイズ形式にして考えさせるようにしたところ、より活発なコミュニケーションが見られる場合があった。

●友達の話をしっかり聞いてわかろうとする態度を育てることが課題である。静かに聞いているようでも、質問するという気持ちをもって聞くのは難しいことだった。年間を通して計画を考える必要がある。友達から学んだことをノートに書かせて紹介するのもよいのではないだろうか。